

## 運営推進会議における評価表【H30年度】

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価に当たっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまり できていない	全く できていない		
<b>I 事業運営の評価【適切な事業運営】</b>							
<b>(1)理念等の明確化</b>							
<b>①看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の計画とその実践</b>							
1	○サービスに求められる「①医療ニーズの 高い利用者の在宅生活の継続支援」「② 在宅での看取りの支援」「③生活機能の 維持回復」「④家族の負担軽減」「⑤地域 包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念 等を掲げている	○				①～⑤まで独自の理念等が職員全員 に徹底されており、より良いサービス 提供がされている。	理念が基準、マニュアルに明記さ れ、フロアに掲示されている。職員以 外にも確認することができる。 いわしぐもの全体会等でも、折々で 振り返る習慣がある。
2	○サービスの特徴及び事業所の理念等 について、職員がその内容を理解し、実践し ている		○			理念・ケア方針を合言葉に研修し実 践しており、実践に繋げている様子が見える。 事業報告を聞く中で職員が理解し合 えていると思う。 サービスの特徴および事業所の理念 等研修し実践されている。	いわしぐもの全体会等で、おりおりで 振り返る習慣がある。 理念をフロアに掲示し、事業所の基 準・方針等も周知されており、実践に 向けての努力がみられる。

<b>(2)人材の育成</b>						
<b>①専門技術の向上のための取組</b>						
3	○職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している。	○			年2回の育成面接を行い、計画の作成、進捗状況の確認ができています。職員の能力に応じた計画が立てられ、良い人材育成が行われている。	人材育成計画を基に各職員に個別指導がされている。育成計画を理解し、上長職員間の進捗確認を行い、育成に努めている。
		【具体的な状況・取組内容】 法人の人材育成の仕組みに則り実施している。年度の前期、後期で所属長と各職員が育成面接を行い、計画の作成と進捗状況の確認を行っている。				
4	○法人内外の研修を受ける機会を育成計画に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している。	○			職員育成計画に基づき技術向上のための研修参加をしており、専門知識・技術を取得して業務に活かしている。専門知識の向上に活かされている。研修参加の報告等を会議で受けている。	看護・介護のための資格取得や研修への参加が積極的に行われている。
		【具体的な状況・取組内容】 各職員の育成計画、年間目標をもとに、法人内外の研修計画が立てられている。育成計画に基づいた研修派遣と自己研修への参加支援も行っている。				
<b>②介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保</b>						
5	○介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている。	○			日々のカンファレンス、スタッフノート、手順書の活用で情報共有が良く図られている。情報を共有しながら実践が進められている。	看護・介護、職員間の情報を密にするため、多数の統一された手法・手順で的確に実施されている。
		【具体的な状況・取組内容】 日々のカンファレンス、総合マネジメントカンファレンス、スタッフノートやホワイトボード、手順書の活用で情報共有されている。				

### (3)組織体制の構築

#### ①運営推進会議で得られた意見等の反映

6	○運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている。	○				<p>定期的に運営推進会議が開催され、報告・意見交換がなされ、改善事項等が業務に反映されている。</p> <p>地域の実情をよく聞いてもらえていて、様々な取り組みをされている。</p>	<p>すみやかに議事録が作成され、事業所内で情報共有されている。会議に職員が交代で参加しており、会議の様子を把握している。</p> <p>利用者への意見聴取を継続して欲しい。</p>
		<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>会議終了後、速やかに議事録が作成され、法人内での決裁、事業所内での合議を行い、サービスの提供に反映させている。</p>					

#### ②職員が安心して働くことができる就業環境の整備

7	○職員が安心して働くことができる就業環境の整備に努めている。		○			<p>労働基準法に基づき福利厚生等の環境が整っており、職員同士での協力があり就業環境の整備に努めている。安心して働くことができる職場である。終業規則に就業環境の整備に必要な事項が定められており、スタッフ全員で協働、マルチに対応できるようにされている。</p>	<p>介護度の高い利用者、困難事例が増加する中、急変などの緊急対応が必要な時にシフト変更、精神的負担が大きいサービス体系である。</p> <p>専門職としての研修などの参加を積極的に行い、実務に活かせることがやりがいにつながられている。</p> <p>また、利用者の夜間等での急な対応は大変そうだと思う。働く職員の負担軽減に努め、精神的にも気持ち良い環境が維持されますように。職員向けの日安箱を継続して欲しい。</p>
		<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>集合規則、労働衛生、福利厚生が整っている。看護小規模の特性であるM柔軟なサービス提供を行うため、急なシフト変更をせざるを得ないことがあり、就業環境上の課題である。</p>					

(4)情報提供・共有のための基盤整備

①利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備

8	○利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている。	○				介護記録システムが導入され、随時更新管理対応されており、利用者の情報は、正確な手順で管理伝達されている。 職員間で迅速に共有されていると思う。	職員間で情報共有する方法が多数ある。普段からコミュニケーションをとりやすい環境である。 今後も個人情報の管理に努めて欲しい。
---	---	---	--	--	--	--	---

(5)安全管理の徹底

①各種の事故に対する安全管理

9	○サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている。		○			ヒヤリハット、アクシデントに対して迅速にカンファレンスを開き、情報共有や対応策の措置が図られている。 事業所の保険加入等もあり、改善対策の取り組みが安全管理マニュアルにより講じられている。 小さなことも見逃さず対応されている。	運営推進介護でも詳細の報告され、指摘や改善がなされている。 今後も、介護保険法に則り、事故発生時には、速やかに市に報告して欲しい。
---	--	--	---	--	--	---	--

②災害等の緊急時の体制の構築

10	○災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方法が共有されている。		○			災害時のマニュアルの完備、教育・訓練に活かされている。防災計画等による訓練も実施している。 災害時(緊急時)の対応マニュアルを利用者にも配布し説明している。	運営推進介護でも、十分な議論を望む。 マニュアルについては毎年見直しをして欲しい。大地震、夜間発生時の対応についての強化を望む。 近隣の緊急避難でも特に重度の障がい者に対して対応又は相談できる状況でいてもらいたい。
----	--	--	---	--	--	---	---

II サービス提供等の評価	
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供	
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成	

①利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施

11	○在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている。	○			モニタリング、カンファレンスにより、個々の生活状況に合わせたアセスメントを実施している。 定期巡回等による状況把握により、利用者および家族とのモニタリングを行う等、適切なアセスメントに積極的である。	アセスメントシートの活用、24時間対応は大変である。全体を見た対応を続けて欲しい。 ロング通い、早朝から夕飯後の対応、家族の就労、健康状態に応じたアセスメントができており、利用者に合ったサービスを提供している。 家庭で介護する家族の体調・年齢・経済面等を含め、夜間が特に問題であるが、今後も柔軟に対応して欲しい。
		【具体的な状況・取組内容】 定期的なモニタリングから総合マネジメントカンファレンスを行い、アセスメントを実施している。急な変化があった時も速やかにアセスメントを行っている。				
12	○介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている。	○			日々のカンファレンス、総合マネジメントカンファレンス、手順書、スタッフノートなどの活用で情報共有されている。	様々な方法で両職種間でアセスメント結果の共有や評価・修正がされている。
		【具体的な状況・取組内容】 日々のカンファレンス、総合マネジメントカンファレンス、スタッフノートやホワイトボード、手順書の活用で情報共有されているが、小さな漏れは防ぎ切れていない。				

②利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成

13	<p>○家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている。</p>		○			<p>定期的なモニタリング及びカンファレンス等による利用者や家族の要望に沿える実情を踏まえた計画が作成されている。</p> <p>家族との話し合いが良くできていると思う。皆さん安心されているように見える。</p>	<p>家族との話し合いが良くできていると思う。皆さん安心されているように見える。</p> <p>今後も家族の思いを考えつつ、より良いサービスを提供して欲しい。</p>
14	<p>○利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている。</p>		○			<p>利用者個別機能回復計画や集団計画両面から実施されている。</p> <p>施設内だけでなく、訪問リハを活用しながら、心身機能の維持回復を目指した計画がされている。リハビリ担当者からの意見を計画に反映させている。</p>	<p>利用者の有する能力をモニタリング等によりアセスメントし、各専門分野からの情報を共有し、利用者及び家族に計画を提案している。</p> <p>個人個人に合わせてリハビリが行われ成果も出ているようです。</p> <p>今後も利用者にあったサービス提供をして欲しい。</p>
	<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>モニタリングと総合マネジメントカンファレンスで目標達成に向けた計画を作成している。登録者とご家族のニーズや在宅生活の継続に向けての支援の方法にずれがある場合、苦慮を要することがある。</p>						
	<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>総合マネジメントカンファレンスを踏まえた生活リハビリを中心に計画し対応している。</p> <p>必要時、複合型施設内に常駐しているRTや摂食嚥下看護師に相談し、評価や指示を受けて計画に反映している。</p>						

③利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理踏まえた計画の作成

15	<p>○利用者の今後の状況変化の予測と、リスクを踏まえた計画が作成されている。</p>		○			<p>介護・看護の両面から状況変化の予測とリスク管理を踏まえた計画が作成されている。</p> <p>主治医との情報交換を行い、医療的な予後予測を計画に組み込んでいる。</p> <p>各専門分野(介護・看護・主治医等)の視点から予後予測を踏まえて計画を作成している。</p>	<p>ターミナル患者などの進行する疾患に対しての状況変化に対する計画・修正が図られている。</p>
	<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>日々のカンファレンスの中で、介護・看護が協働し、今後の状況変化を予測し計画を立案、修正している。主治医との情報共有もを行い、医療的な予後予測も計画に組み込んでいる。</p>						

<b>(2)利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践</b>						
<b>①継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映</b>						
16	○サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている。		○		日々のカンファレンスでの情報共有により今後の状況変化を予測した計画の立案、修正を行い利用者にあったサービス提供をしている。	継続的な変化に早期に対応し、計画に反映されている。
		【具体的な状況・取組内容】 日々のカンファレンスの中で、介護・看護が協働し、今後の状況変化を予測し、計画を立案・修正している。主治医との情報共有も行い、医療的な予後予測も計画に組み込んでいる。				
<b>②居宅への訪問を含む、利用者の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映</b>						
17	○通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している。		○		利用者の家族の方への丁寧な話し合いの中で最善の対応ができるよう努力されている。家庭での生活状況の把握でアセスメントへの反映が良くなされている。 利用者の生活状況を把握する為に定期的なモニタリングによる利用者や家族とのコミュニケーションを図っている。	介護度が高い利用者が多く、家族の負担軽減等のニーズで通いを希望されるケースが多い。 状況を継続的に把握し、柔軟に対応されている。
		【具体的な状況・取組内容】 ケアマネジャーが定期的にモニタリング訪問を行って、自宅での状況把握と利用者・家族のニーズの確認を行い、総合マネジメントカンファレンスで目標達成にも桁計画になるよう評価・修正している。登録者とご家族のニーズや在宅生活の継続に向けての支援の方法にずれがある場合、苦慮を要することがある。				
<b>③利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有</b>						
18	○利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている。	○			日ごろから主治医や他事業所との情報共有が図られており、連携が計画書および報告書により共有されている。 主治医等との連携がとれ、本人・家族が安心であるのがマザーホームの強み。 関係する多職種との連携が図れている。	状況変化などの情報提供が適切に行われている。
		【具体的な状況・取組内容】 看護師は、毎月主治医に報告書・計画書を届けている。他事業所にも適時状況変化や目標達成状況等について報告を行っている。				

<b>(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供</b>						
<b>①介護職と看護職の相互の専門性を活かした柔軟なサービスの提供</b>						
19	○介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている。	○			それぞれの職種の専門性に応じた役割分担ができており、看護・介護職間の専門性が発揮され、各々が柔軟に協力しながら業務に携わり、サービス提供を行っている。	職員が役割分担を果たしながらお互いに協力し合えていると思う。看護・介護の連携が良くとれている。
				【具体的な状況・取組内容】 情報共有をまめに行いながら、それぞれの資格に応じた役割分担と協働を行っている。		
20	○利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど。両職種間の連携が行われている。		○		看護・介護職間で日々カンファレンス・情報交換がなされ対応されている。日々のカンファレンスなどを行い、看護・介護が情報共有し合い、日々のケアに活用している。	各専門職が互いに情報共有しようとする意識が高く、連携が行われている。
				【具体的な状況・取組内容】 日々のカンファレンスの中で、介護、看護が情報共有しあい、協働している。		
<b>②看護職から介護職への情報提供及び提案</b>						
21	○看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている。		○		利用者事の情報情報は看護職から介護職へ詳しく情報伝達されている。看護師から医療についての情報提供や勉強会を行っている。注意点などは日々のカンファレンスで提案している。医療に関するカンファレンスも十分に行われている。	日々の朝礼やカンファレンスで各職種からの情報提供や提案等を積極的に行っている。
				【具体的な状況・取組内容】 医療に関する情報提供や学習を看護師がこまめに介護職に対して行っている。日々注意することは、朝礼やカンファレンスでも提案等を行っている。		

(4)利用者等との情報及び意識の共有						
①利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供						
22	○サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている。	○			利用者、家族へ丁寧に説明がなされている。 見学時や契約時に細かく説明を行っている。 利用者が理解できるよう分かりやすく説明されている。	繰返しの説明、資料や誠ツ名所等の配布による説明に努めている。結果、利用者の理解を得ている。
		【具体的な状況・取組内容】 事前見学や契約時に細かく説明を行い、理解が得られるよう努力している。多様なサービスの事業所のため、繰返し説明が必要な方もいる。				
②利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明						
23	○作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている。	○			作成された計画、内容を細かく理解できるように説明している。 また、ケアマネジャーから月1回の利用者及び家族への説明があり理解を得ている。 分かりやすい言葉で丁寧に説明し理解を得ている。	利用者や家族から悩み事や困ったことに対してアドバイスややり方を丁寧に伝えられている。利用者家族の不安軽減につながっている。
		【具体的な状況・取組内容】 ケアマネジャーから利用者、家族へ1～3表、ほか書類で説明を行い、理解を得ている。				
24	○利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている。	○			取扱説明書等で覚えるまで良く指導している。 主治医の指示の下、医療機器の取り扱いや医療処置について細かく説明がされている。 提供内容やその方法等の説明が各専門職から分かりやすく行っている。	利用者の方へ細かく丁寧に説明されている。  看護職を中心に分かりやすく丁寧に指導されている。
		【具体的な状況・取組内容】 主治医の指示のもと、看護師から利用者等へ医療機器や処置内容の説明を行い、理解を得ている。				

③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有

25	<p>○利用者本人(意思決定・表示ができない場合は家族等)の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している。</p>	○				<p>ケアマネジャーや主治医が意思を把握する意識が高く、利用者や家族への提供サービスの説明がされている。 ケアマネ、職員全員が利用者本人の希望や意向を把握しサービスの提供に反映されている。医師の指示を受けながら、家族の意向も入れ、臨機応変に対応している。</p>	<p>医師の指示を受けながら、家族の移行も入れ、臨機応変に対応している。 泊りでの看取りをおこなったり、利用者・家族の意向を尊重したサービスの提供ができています。</p>
26	<p>○在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている。</p>		○			<p>毎月のモニタリング時に今後のリスクを想定し、関連機関、利用者、家族との連絡や相談の上、予測される課題への対応方針の検討や共有ができています。家族、関連機関と協議し、人権尊重を第一に対応している。</p>	<p>利用者・家族が一番悩む所だが、家族の様々な状況を踏まえ対応している。</p>
27	<p>○終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および島での経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の移行等を記録として残している。</p>	○				<p>適切な時期にパンフレット等を活用して説明し、利用者及び家族の意向を十分に把握し、医師の意見等も全て記録に残している。主治医の指導の下、利用者・家族の意向を踏まえサービスを提供している。主治医の意見や説明、実施対応も正確に記録されている。</p>	<p>主治医からの指示を受けて事業所作成のパンフレットを使い、分かりやすい説明を行っている。状態の変化などの共有のための記録ができています。</p>

2. 多機関・多職種との連携

<b>(1)病院・施設等との連携による切れ目のないケアの提供</b>						
<b>①病院・施設等との連携や情報共有による、在宅生活への円滑な移行</b>						
28	○病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している。	○			在宅生活が可能か医師や看護師の意見も勘案し意向を決定している。関連機関との情報交換や情報共有をカンファレンス参加や受診時の同行等、積極的に関わる取り組みを行っている。スムーズに在宅生活への移行ができるよう支援されている。情報の共有が良くできている。	退院前カンファレンスの参加、受診同行やサマリーなどから情報共有を図っている。
		【具体的な状況・取組内容】 退院時カンファレンスへの参加、受診・面談同行、サマリーでの情報共有を行い、円滑な在宅生活への移行を支援している。				
<b>②入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有</b>						
29	○すべての利用者について、緊急時の対応方針を、主治医等と相談・共有することができる。	○			全ての利用者に主治医の指示書に基づいて対応されており、看護師が中心となって、主治医と相談、情報共有ができている。緊急時、相談や受診対応ができている。	主治医等との情報共有を確実なものにする為、利用者及び介護者の状況の変化を都度報告し、緊急時の対応方針を相談して共有している。
		【具体的な状況・取組内容】 看護師が中心となり、こまめに主治医に相談、情報共有を行い、対応している。				
<b>③地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築</b>						
30	○地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている。	○			緊急時に備え、主治医との連携や契約医療機関との調整ができている。急変時に即座の対応ができるよう、利用者の主治医や服薬等の情報管理と連携病院や契約医療機関による対応ができる体制ができている。	主治医が対応できない場合に備え、連携医療機関との連携が執られている。
		【具体的な状況・取組内容】 主治医を中心に対応できる体制になっている。緊急時に備え、契約医療機関も備えている。				

(2)多職種との連携体制の構築

①運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討

31	○運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報発信や提案が行われている	○				2か月に1回の運営推進会議で様々な立場から利用者のための情報交換が行われている。 自治会、民生の参加により地域の中の施設として期待をされている。利用者の特性なども会議で報告されるため、会議参加者が把握できる。	今後も利用者・家族の意見が反映されるよう、アンケートは続けて欲しい。
		【具体的な状況・取組内容】 2か月に1回の運営推進会議で、事業概要の情報提供や意見聴取を行っている。					

3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画

(1)地域への積極的な情報発信及び提案

①サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信

32	○運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている。	○				広報発行、議事録、ホームページ実施。 職員への議事録の回覧やホームページへの掲載があり、情報公開されている。	議事録は職員及び委員には書面にて報告され、法人のホームページに迅速な情報発信により公開されている。
		【具体的な状況・取組内容】 職員には議事録の回覧を行っており、ほかにIT媒体への情報提供も行っている。					
33	○サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている。	○				地域へ向けた行事や広報、ホームページ等での発信、戸室のひろばやホールの開放、要望への対応等、老後の福祉・医療等を含めた総合相談サロンを。 地域での講演や家族会のオブザーバーなどを通じて啓発活動に努めている。 地域公開講座等研修講師をし、地域の求めに応じ、管理者や職員も積極的に啓発活動を行っている。また、夏まつり、餅つき等の行事の際等、地域の方々との交流の機会を大切にしている。	行事や講和を通し、活発に行われている。まだまだ地域の全ての人というわけにはいかないが、これからも啓発活動をお願いしたい。
		【具体的な状況・取組内容】 管理者を中心に地域等への講師や家族会のオブザーバー等を通じて啓発活動を行っている。また、地域の求めに応じて職員も講師等を行っている。					

(2)医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮

①看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供

34	○看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している。	○				一体型の訪問看護ステーションで、看護小規模登録者以外に、介護保険・医療保険合わせて100名以上の訪問看護を行っている。
		【具体的な状況・取組内容】 一体型で運営している訪問看護ステーションもみじで、看護小規模登録者以外に介護保険・医療保管合わせて100名以上の訪問看護を行っている。				

②医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ

35	○「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている。	○				介護職の特定行為事業所認定を受けており、体制が整っているため積極的に受け入れている。	「たん吸引」などの医療体制は整っている事業報告を聞いている。
		【具体的な状況・取組内容】 介護職の特定行為事業所認可を受けており、たん吸引を必要とする要介護者を受け入れる体制になっている。					
36	○「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている。		○			建物の構造上、人工呼吸器のしようがこんなんではあるが、NPPVの受け入れなど、可能な範囲で受け入れができています。 受入体制が整っており、NPPVを受け入れた実績がある。	
		【具体的な状況・取組内容】 今年度、NPPV(非侵襲的陽圧換気)を受け入れた実績がある。					
37	○「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている。	○				訪問看護や主治医の指示により看取り体制が整っており、関連施設や病院からの依頼も積極的に受け入れている。利用者及び家族の要望を踏まえ、必要な介護・看護・医療等各分野との協力体制が整っている。	
		【具体的な状況・取組内容】 体制が整っており、今年度は自宅での看取りの他、宿泊での看取りも行った。					

(3)地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画

①行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解

38	○管理者および職員が、行政が介護保険事業計画で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	定期的に地域包括ケアシステムに関する情報提供を井行っている。法人内外の研修へ参加できる仕組みがある。法人内外の研修に参加し、得られた情報を事業所で共有している。	研修等を開催し、情報提供をして欲しい。内容の理解については役割や関わり具合によって職員間で差がある。
		【具体的な状況・取組内容】 定期的に地域包括ケアシステムに関する情報提供も行っている。法人内外の研修にも参加できる仕組みがある。内容の理解については役割や関わり具合によって職員間で差がある。					

②サービス提供における、(特定の建物に限定しない)地域への展開

39	○サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	積極体に市内全域にサービスを提供している。地域関係機関等へのアプローチ及び自治会や地域の方々との交流を重ね積極的にサービスを提供している。	地域の自治会や地域福祉団体と交流の機会をつくっている。
		【具体的な状況・取組内容】 特定の集合住宅に限定せず、市内全域にサービスを提供している。					

③安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等

40	○介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	サービス提供を行っている中で、利用者や家族に必要と考えられる課題や改善策等を市役所や民生委員の方々と相談する事により、関係者との情報交換となり、地域での介護・看護の大切な役割を果たしている。	地域への協力支援を行っている。
		【具体的な状況・取組内容】 管理者、ケアマネジャー、看護師等から利用者、家族を中心として、地域の関係機関等に課題提起や相談を行っている。					
41	○家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	施設全体の取り組みとして地域交流委員会があり、家族等や近隣住民との交流として、ボランティアの来所による催しや夏まつり等を実施。又学習会、地域公開講座等による発信や交流が行われている。	家族や住民へのPRもなされ、地域講座、交流会もなされている。行事や講座など行われているが、地域全体とまではいかないが、徐々に広がっていったら良いと思う。積極的にボランティアの受け入れや家族の協力等を得るように努めている。
		【具体的な状況・取組内容】 家族や近隣住民などに対し、看護・介護の知識・技術の伝達や希望の学習会などを開催し、介護力の引き出しや向上のために努力している。事業所が入っている複合型施設全体の取り組みとして、地域交流委員会があり、地域に向けての介護関連の様々な発信や催しを行っている例として、地域公開講座、夏まつり等がある。					

### Ⅲ 結果評価

#### ①計画目標の達成

42	○サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている。	【1】ほぼすべての利用者について、 達成されている。	計画の評価修正を行いながら、利用者ごとの目標は達成されている。日ごろより利用者及び家族とのコミュニケーションを図り、情報共有ができており、毎月のモニタリングや総合マネジメントカンファレンスにより計画評価を行っており、計画目標が達成されている。	
		【具体的な状況・取組内容】 毎月のモニタリング訪問や総合マネジメントカンファレンスで計画の評価・修正を行っており、利用者ごとの計画目標はほぼ達成されている。		

#### ②在宅での療養生活の継続に対する安心感

43	○サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている。	【1】ほぼすべての利用者について、 達成されている。	主治医と連携があり、安心である。利用者、家族に配慮がされており、満足度調査から、安心感が得られているという回答が多数みられる。利用者・家族が共に介護負担にならないよう配慮され、安心感が得られている。	利用者や家族に寄り添い、直接声を聞き励ます心がけと職員で情報共有することで、利用者満足度調査でも安心考えられている結果になったと思う。
		【具体的な状況・取組内容】 利用者満足度調査の結果では、ほぼすべての利用者、家族から何らかの安心感が得られていると回答が寄せられている。		
44	○サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている。	【1】ほぼすべての利用者について、 達成されている。	利用者・家族から安心できたという言葉が多く、グリーフケアを行う事で家族から直接言葉を聞き、職員で共有している。良くできている。自宅での看取り希望の安心度はほぼ達成できている。	在宅看取り対応において、対応した家族から細部に亘り対応頂き満足との評価がある。主治医及び職員より、利用者や家族の要望や質問に対し分かりやすく丁寧な説明をしており、また、その情報を共有している為安心感が得られている。
		【具体的な状況・取組内容】 利用者満足度調査の結果では、ほぼすべての利用者、家族から何らかの安心感が得られていると回答が寄せられている。「安心できた」という言葉が見られた。また、グリーフケアを行う事で、家族から直接言葉を聞き、職員で共有している。		